

### トピックス

#### 2004 年定点報告感染症の特徴

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。今年も皆様方のご協力を得ながら、正確な感染症情報をすばやくお届けできるよう、スタッフ一同、努力を続けてまいりますので、よろしくご支援のほど、お願い申し上げます。

年が明け、2004 年の感染症報告がでそいりましたので、過去 5 年間の定点報告の動向(表)からみた昨年の特徴を探ってみました。疾患は 2004 年の報告数順に並べてあります。ご覧のように、昨年の報告の上位を占めた疾患は感染性胃腸炎(47,670 件)、インフルエンザ(38,118 件)、水痘(11,859 件)、そして流行性耳下腺炎(10,629 件)で、毎年常連の疾患が並んでいます。2004 年の報告数が、過去 5 年の平均(100%)よりも多かった疾患は、咽頭結膜熱(174%)、細菌性髄膜炎(143%)、マイコプラズマ肺炎(143%)、そして風しん(123%)と続いています(2003 年から報告が開始された RS ウイルスは除く)。平均より少なかった疾患のうち、報告例の少ない疾患を除くと、麻しん(6%)と手足口病(35%)の少なさが目立っています。また、過去 5 年間の報告数のバラつきを示す変動係数(標準偏差÷平均値×100)を見ると、変動が大きく、年によって流行の度合いが大きく異なる疾患としては、麻しん(101)、無菌性髄膜炎(85)、咽頭結膜熱(64)などがあり、反対に、感染性胃腸炎(5)、突発性発疹(8)、ヘルパンギーナ(11)、A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎(12)、水痘(12)などは報告数の年次変動が少ないことが(少なくとも県内において)示されました。

感染症の定点報告は、地域の感染状況が反映されるように、定点医療機関が選定されていますが、流行状況や、報告の状況によっては、かならずしも現場の流行状況が反映されない可能性があります。愛知県感染症週報では、地域の流行状況をよりリアルにお伝えするために、先生方のコメントを掲載しております。どうか今年も、どしどし現場の声をお寄せください(連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp)。

疾患名	定点数	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	平均	変動係数	2004÷平均 (%)	2004年 定点当たり
感染性胃腸炎	182	45,649	44,493	41,415	43,777	47,670	44,601	5	107	262
インフルエンザ	195	33,835	12,270	37,632	48,705	38,118	34,112	39	112	195
水痘	182	15,957	15,092	13,260	15,776	11,859	14,389	12	82	65
流行性耳下腺炎	182	7,711	14,361	8,045	6,202	10,629	9,390	34	113	58
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	182	9,271	8,768	7,399	10,236	9,732	9,081	12	107	53
ヘルパンギーナ	182	8,505	6,675	6,743	6,612	7,191	7,145	11	101	40
突発性発しん	182	7,753	7,449	6,584	6,894	6,440	7,024	8	92	35
咽頭結膜熱	182	631	2,520	572	1,937	3,016	1,735	64	174	17
伝染性紅斑	182	2,492	4,867	2,319	2,263	2,852	2,959	37	96	16
手足口病	182	8,739	6,414	7,106	11,125	2,531	7,183	44	35	14
流行性角結膜炎	182	1,800	1,945	1,036	1,582	1,582	1,589	22	100	9
RSウイルス	182				105	617	361	100	171	3
マイコプラズマ肺炎	13	125	229	119	291	305	214	41	143	23
百日咳	182	213	112	85	87	149	129	41	115	1
風しん	182	115	114	118	72	136	111	21	123	1
麻しん(成人麻しんを除く)	182	591	2,017	2,163	186	61	1,004	101	6	0
急性出血性結膜炎	182	55	20	33	35	29	34	37	84	0
無菌性髄膜炎	13	40	19	98	18	24	40	85	60	2
細菌性髄膜炎	13	7	9	15	9	16	11	36	143	1
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	13	1	1	1	0	0	1	91	0	0
成人麻しん	13	7	27	22	5	0	12	95	0	0
急性脳炎(日本脳炎を除く)	13	0	1	4			2	125	0	0

愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

## インフルエンザウイルス分離状況（平成 17 年 1 月 6 日現在）

平成 17 年 1 月 6 日現在、感染発生動向調査等の目的で 11 月～12 月に医療機関等から県衛生研究所に搬入された 27 検体から A ソ連型インフルエンザウイルス 1 株、A 香港型インフルエンザウイルス 1 株、B 型インフルエンザウイルス 9 株が分離されています。

A ソ連型は名古屋市内の医療機関において 12 月 22 日に 11 歳の女児から採取された検体から分離されています。当女児は 12 月 18 - 19 日にかけて東京ディズニーランドを訪れていることから、県外で罹患した可能性が考えられます。また、A 香港型は半田保健所管内の医療機関において 12 月 4 日に 4 歳の女児より採取された検体から、B 型は春日井及び江南保健所管内の医療機関において 11 月 18 日から 12 月 8 日にかけて主に小児から採取された検体から分離されています。抗原性は全て今冬（2004 / 2005 シーズン）のワクチン株と類似していますので今シーズンのワクチンで防御可能と考えられます。

新年を迎え、これから本格的な流行期に入りますが、流行の推移に合わせまして情報を提供していきます。

インフルエンザ

発生動向調査	11月	12月	合計
検体数	7	20	27
Aソ連型	0	1	1
A香港型	0	1	1
B型	5	4	9

## 定点の先生方からのコメント（52 週）

### 尾張西部地区

感染性腸炎、多いです。

咽頭結膜熱（チェック A d（+））1 人ありました。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

アデノウイルス、ロタウイルスによる胃腸感染症が多く、マイコプラズマ肺炎も多数見受けております。

マイコプラズマ感染症は迅速テストでの判定が主です。

病原性大腸菌 O1 7 歳男、23 歳女、25 歳女  
病原性大腸菌 O25 5 歳男、6 歳女

【尾西市 城後小児科】

感冒性の嘔吐症が多い。

インフルエンザはない。

【一宮市 平谷小児科】

9 歳以下の子供を中心とした B 型インフルエンザは終息した様です。

胃腸炎も減少してきました。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎が非常に多く見られます。

溶連菌感染症、流行性耳下腺炎、水痘の流行も続いています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

嘔吐主体の胃腸炎が多いようです。

【江南市 河野小児科】

感染性胃腸炎が目立ちます。

発熱伴うものなし。

ムンプスが続発中

RSウイルス感染は 1 例と減少しています。

インフル A 型 1 例ありました。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが未だ続いて居ります。ロタウイルス（-）

【春日町 丹羽医院】

---

## 尾張東部地区

---

ロタウイルス感染を含めた感染性胃腸炎が相変わらず多い。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週は嘔吐、下痢（胃腸かぜ）の症例が大変多くみられました（高熱を伴う例もありますがほとんど1日で症状改善します）。

アデノウイルス感染症減少しましたが、溶連菌感染症が増加してきたようです。

ヘルパンギーナ様症例1例あり、インフルエンザは今週も全くみられませんでした。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

感染性胃腸炎が大流行です（医師会の中でも）。

【東郷町 ホリバ医院】

12月20日 41歳女性 B型インフルエンザ

【豊明市 豊明団地診療所】

胃腸炎依然多いです。

【春日井市 春日井市民病院】

胃腸かぜ多数なお続いています。

ムンプス、水痘少々

アデノ扁桃炎 1例

インフルエンザありません。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

まだ感染性胃腸炎が多くあります。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

B型インフルエンザが増加してきています。

アデノウイルス感染、感染性胃腸炎も目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

感冒性胃腸炎多し。

インフルエンザ流行なし。

【小牧市 小牧市民病院】

胃腸かぜが流行しています。

【春日井市 かがわ北病院】

感染性腸炎非常に多い印象です。家族内感染も目立ちます。

【春日井市 竹内医院】

感冒性胃腸炎多し。

【南知多町 大岩医院】

ヘルペス歯肉炎が3名

【東海市 小児科八ヤカワ医院】

胃腸炎流行中

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

病原性大腸菌O25 1歳男

病原性大腸菌O146 2歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

1歳男 アデノウイルス(+)

3歳男 病原大腸菌O18(+)

2歳女 アデノウイルス(+)(流角)

インフルはまだいません。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

8歳男 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 にいのみ小児科】

4歳女 アデノウイルス扁桃炎

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

20日 インフルエンザ今季初例です。検査の反応は少し弱かったですが、症状が39度以上、熱性ケイレン、熱せんもう(+ )よりインフルエンザと考えられた。4歳男 B型

24日 4歳男 B型

【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】

15歳女、15歳男 ラピッドテストFLU AB A、B(-)

【岡崎市 医療法人永坂内科医院】

嘔吐下痢症 引き続き目立ちます

ムンプスも続いています

【碧南市 永井小児クリニック】

アデノウイルス感染が2例、伝染性紅斑が4例いました。

【刈谷市 まついこどもクリニック】

アデノ感染症1名

【知立市 宮谷クリニック】

感染性胃腸炎流行中

【西尾市 やすい小児科】

10ヵ月女 RSウイルス感染症

1歳女 アデノウイルス感染症

10歳女 カンピロバクター

【幸田町 とみた小児科】

4歳女 マイコプラズマ肺炎

感染性胃腸炎が流行しています。

【三好町 三好町民病院】

---

## 東三河地区

---

7歳女 マイコプラズマ肺炎  
【豊橋市 野村小児科】  
55歳男 インフルエンザA型  
30歳女 インフルエンザA型 12月21日に  
イギリスより帰国  
【豊橋市 医療法人山本内科】

インフルエンザA型 4歳女 1例のみ陽性で  
した。  
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

## 定点の先生方からのコメント(53週)

---

### 尾張西部地区

---

病原性大腸菌O1 3歳女2名、15歳男  
病原性大腸菌O25 5歳男2名  
感染性胃腸炎が非常に多い。  
発熱有りの多くはアデノウイルス感染症  
によるもので、入院者もあります。  
インフルエンザは未確認です。  
【尾西市 城後小児科】  
インフルエンザB型 2歳男 今期初めて  
でした。  
【一宮市 平谷小児科】  
12月4日に東南アジア帰りの父から感染  
した2歳女のA型インフルエンザ感染があ  
りましたが、その後B型のインフルエンザ  
ウイルスしか見られず、犬山東部、西部へ  
広がりを見せています。  
12月27日夜9時40の発熱で5歳女受  
診し、A型インフルエンザでした。  
【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎多い。  
ムンプスも流行中  
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】  
10歳男、インフルエンザA(ワクチン未  
接種)  
【江南市 みやぐちこどもクリニック】  
12歳男 マイコプラズマ肺炎  
嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが相変わらず  
多いようです。ロタウイルス(-)  
【春日町 丹羽医院】

### 尾張東部地区

---

B型インフルエンザ症 2名  
相変わらずロタウイルス感染が多い。  
溶連菌感染もある。  
【瀬戸市 津田こどもクリニック】  
アデノウイルス感染症がまた少し目立っ  
てきました。(咽頭結膜熱 3歳男、4歳女、  
33歳女性)  
溶連菌感染症も目立ちます。  
インフルエンザ 2例(家族内感染でB型  
でした。)  
その他流行性耳下腺炎、水痘  
相変わらず嘔吐、下痢症状の受診者が沢  
山みられております。  
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】  
胃腸炎が多いです。  
【春日井市 春日井市民病院】  
水痘・ムンプスつづいています。  
胃腸かぜ多数  
インフルエンザなし。  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

胃腸かぜが流行してます。  
【春日井市 かがわ北病院】  
インフルエンザ流行なし。  
アデノ感染多い(咽頭炎、肺炎)。  
【小牧市 小牧市民病院】  
某乳幼児施設で入所者にRSウイルス感  
染症がみられます。  
インフルエンザはやはりBのみです。  
【小牧市 志水こどもクリニック】  
B型インフルエンザが4名出ました。  
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】  
12/27当院で初のインフルエンザ患者あり  
9歳男 インフルエンザB型(+)  
帯状疱疹 4歳男、9歳女  
【大府市 まえはらこどもクリニック】

## 西三河地区

6歳女 イムノカードSTストレップA(+)  
 8ヵ月女 ディレクティジェンEZRSV(+)  
 【豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック】  
 インフルエンザは出ていません。  
 咽頭結膜熱(アデノ陽性)  
 【岡崎市 花田こどもクリニック】  
 7ヵ月男 病原性大腸菌O1 VT(-)  
 1歳女 病原性大腸菌O125 VT(-)  
 【岡崎市 にいのみ小児科】  
 8歳女 マイコプラズマ肺炎  
 4歳男 カンピロバクター、大腸菌 O6  
 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】  
 インフルB型 24日報告分の弟  
 【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】

42歳男 ラピッドテストFULAB A、B(-)  
 【岡崎市 医療法人永坂内科医院】  
 インフルエンザ総検査数 61名 A型1、  
 B型2  
 【安城市 愛知県厚生連安城更生病院】  
 感染性胃腸炎流行中、特に嘔吐だけの症状  
 が多い。  
 【西尾市 やすい小児科】  
 インフルエンザA型1名、B型2名(今シーズン  
 初めて)  
 【幸田町 とみた小児科】  
 感染性胃腸炎が流行しています。  
 【三好町 三好町民病院】

## 東三河地区

0歳女、5歳男 カンピロバクター(2人共血  
 便がひどかった)  
 【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】  
 サルモネラO9腸炎 2名  
 【豊橋市 あずまだこどもクリニック】  
 7歳女、4歳男、3歳女、2歳女 アデノ扁桃  
 炎4名  
 4歳女 マイコプラズマ気管支炎  
 8歳男 マイコプラズマ肺炎  
 1歳女 ヘルペス歯肉口内炎  
 【豊橋市 野村小児科】

インフルエンザB型 7歳男 1例のみ陽性で  
 した。  
 【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】  
 インフルエンザ発生なし。  
 嘔吐下痢もおさまっている。  
 【豊川市 豊川市民病院】  
 1ヵ月 細気管支炎にて入院  
 【田原市 かわせ小児科】

## 一～三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

細菌性赤痢		<関連リンク> 二類感染症 ( <a href="http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-3">http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-3</a> )					
番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備考
1	西尾	25	女	12/29	12/30	1/1	推定感染地域 エジプト

## 四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

急性脳炎1例(1歳) 52週  
 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-3>)  
 レジオネラ症1例(31歳) 53週  
 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/leg.html>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

明けましてお目出度うございます。旧年中は何かとお世話になりました。本年も引き続きよろしくをお願いいたします。いつも貴重な情報を有難うございます。年末年始で遅くなりましたが12月前半（一部後半も）のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはウイルス性胃腸炎が多くなりクルーブ症候群、急性気管支炎・肺炎も増加、ウイルス性胃腸炎やクルーブ症候群、喘息性気管支炎の重症例の入院が目立ちムンプスは比較的多く水痘が散発的に発生、マイコプラズマ肺炎も一定数入院、城北病院渡辺先生からは急性胃腸炎やや増加、嘔吐が主で下痢例は少ないが長期の嘔気や食欲不振も目立ち、便からロタ陽性例がちらほらあり、インフルエンザB陽性1例、ムンプス小流行、RSウイルスによる喘息様気管支炎増加、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザはまだいないが、嘔吐下痢のウイルス性腸炎が多く入院が目立ち、RSウイルスの細気管支炎の入院やや多い、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎が乳幼児に時々あり、熱を伴う風邪が幼児にぼつぼつあり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎4-5名(病原性大腸菌O6、O25、黄色ブ菌2名)、ウイルス性と思われる急性嘔吐下痢症が目立ち(2-3日の入院例数名)、A群溶連菌感染症2名、手足口病1名、RSウイルス細気管支炎1名、マイコを含む肺炎の入院約10名、中京病院柴田先生からは水痘が流行中、ロタウイルスその他の嘔吐下痢症の流行も続き、RS感染症の乳幼児例の入院が増加、労災病院山田先生からはロタ陰性の胃腸風邪(入院目立つ)、RSウイルス感染症(入院目立つ)、病原性大腸菌検出例が多くマイコプラズマ肺炎の入院が多い、大同病院水野先生からはRSウイルス感染症(今年はRS感染症が特に多いようで細気管支の入院目立つ)、ウイルス性腸炎も多く、気温が高いせいか細菌性腸炎の入院も目立つ、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは流行性嘔吐下痢症が多発中で保育園によっては園児と職員に発生、A群溶連菌の咽頭炎散発、年末にA型インフルエンザ5歳女1例、B型インフルエンザ散発は消退したが同ウイルスによる腓腹筋炎9歳1例、江南市昭和病院小児科からは感染性胃腸炎、ムンプス、水痘が目立ちRSウイルス感染症による入院多数、アデノウイルス感染症の入院例あり、常滑市民病院上田先生からはA型インフルエンザが目立ち(要入院例あり)、ロタウイルスやサルモネラを含む感染性胃腸炎(入院あり)、マイコプラズマ気管支炎・肺炎の入院、ムンプス、水痘が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはRSウイルス感染症散在、喘息性気管支炎はまだ多い、加茂病院梶田先生からはムンプス、A群溶連菌感染症、ロタ陰性の胃腸炎が多く(入院例も目立つが軽症)、入院ではRSウイルス感染症とマイコプラズマ感染症が多く川崎病4例と流行している感じ、刈谷市田和先生からは感染性炎胃腸炎で嘔吐下痢症が目立ち軽症、ロタ陰性、碧南市永井先生からは嘔吐下痢症が目立ち、手足口病が時々あり、水痘とムンプス増加、豊橋市からは感染性炎胃腸炎、溶連菌感染症、ウイルス性気管支炎などが目立つ(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

2004年11月19日(79巻47号) <http://www.who.int/wer/2004/wer7947/en/>

コレラ。セネガル：セネガル保健省の04年11月10日、WHO届出。首都ダカールの報告：861例(死亡6)。減少中。健康教育、治療、サーベイランス、流行情況の監視などを含む対策を強化、特別委員会が組織されキャンペーンを実施中。

リンパ系フィラリア症(LF)。障害の発生予防活動(フィラリア：蚊が媒介する原虫感染症。成虫はリンパ系に寄生、生存4-5年。子虫・ミクロフィラリアが数百万匹血中に放出、マラリア同様吸血蚊によって人が感染。世界83カ国に風土病的に常在。世界全体で10億人に感染リスクあり、1.2億人が感染していると推定され、その約1/3はインド、1/3はアフリカ、他は東南アジア、太平洋地区、南北アメリカと東地中海地区に分布。97年、世界保健会議(World Health Assembly)は公衆衛生上の重点としてLF制圧を決議した。集団投薬によるフィラリア伝播根絶(同じ薬剤が有効なオンコセルカ症も根絶)。2回投薬。既に感染・発病した例の障害発生予防=地域差があるがリンパ液の貯留による陰のう水腫と象皮病、リンパ管炎、乳び尿、後遺症としての皮膚・陰部の変形や運動障害があり、それに対して患部の清潔と細菌混合感染治療、リンパ流の改善のためのマッサージが有効であることが知られている。本報はWHOがパイロットプロジェクトを実施しているマダガスカル、スリランカ、ザンジバルの最近の治療成果のまとめである：患者自身を含めた家族、地域社会への働きかけを採用。訓練された保健担当者が患部の清潔保持を指導、月1回の訪問監視、スリランカでは月1回の受診による医師の追跡調査が実施されている。調査結果は開始後最初の3-4ヵ月で障害は明らかに減少、以後この減少傾向が続いている(図あり)。

11月12-18日届出。コレラ：ブルンジ、コンゴ、ギニア、ギニアビサウ、セネガル、イラン、シンガポール。

2004年11月26日(79巻48号) <http://www.who.int/wer/2004/wer7948/en/>

ポリオ。急性弛緩性麻痺(Acute flaccid paralysis,AFP) サーベイランス。世界規模の感染症発生状況調査と対応による感染症対策優先順位：1988年、世界保健会議がポリオ制圧を宣言して以来、当時125カ国以上あったポリオ流行国が03年末には6カ国に減少した。根絶作戦では15歳以下の小児のAFP例の正確なサーベイランス、ポリオウイルスの培養・同定のネットワーク確立が非常に有効であったが、この作戦の進捗と共に、ポリオ圧政が進んだ地域ではポリオ以外の麻疹などワクチンによる予防可能な感染症の実態把握と作戦立案も対ポリオネットワークを利用してして可能となった。WHO南北アメリカ地区では麻疹・風疹を目標とした熱性発疹症調査、アフリカ地区ではAFPサーベイランス調査が核となって感染症対策優先順位のための統合的疾患監視と対応システムが発足した。本報はAFPサーベイランスシステムが麻疹など他のワクチン予防可能疾患の監視と対応の場となっている状況の紹介である。1) AFPサーベイランスシステム：ポリオの臨床的診断基準が確立され、AFPサーベイランスは症例発見後迅速な届出とウイルス検査、非流行地では毎月のゼロ報告、主要拠点機関の定期監視、が実施されるようになり、AFPサーベイランスは世界215カ国中198カ国(アフガニスタン、アンゴラ、コンゴ共和国、ソマリア、南スーダン等紛争地区でも)で継続されている。15歳未満の人口10万当り非ポリオAFP発生1例以上をサーベイランス実施良好地区の目安として、03年WHO届出状況は世界全体で参加国198、ポリオ検査機関145、麻疹検

査機関 690 が参加、AFP 34,915 (非ポリオ 1.9%)、適正なポリオ検体搬送 86%、検査室診断でポリオ陽性 784 例、血清検査で麻疹確定 20,906 例であった(地区別一覧表あり、AFP はアフリカ、東南アジア、東地中海地区が目立つ)。2) AFPサーベイランスの拡大: WHO 全米地区では先天性風疹症候群根絶目標を 2010 年として麻疹・風疹の届出と血清診断を強化、03 年には麻疹疑い例の 95%が採血。WHO 他地区では 1.2-29%が検査を実施している。3) 他のワクチン予防可能疾患: AFPシステムを利用して新生児破傷風(この場合血清診断など検査室診断法がない)、他の感染症への拡大も検討が進んでいる(ポリオ、麻疹・風疹、黄熱の検査室分布の世界地図あり)。

11 月 19 - 25 日届出。コレラ: ベニン、チャド、ギニアビサウ、ウガンダ、タンザニア、インド。

愛知県感染症情報

2004年第52週(平成16年12月20日～12月26日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
<b>愛知県</b>																										
<b>愛知県 (名古屋市を含む)</b>	195	182	35	51	13	43	86	31	270	2,921	291	72	30	101	0	0	5	1	232	0	31	0	0	4	0	0
<b>総数 (名古屋市は除く)</b>	125	112	24	37	12	36	78	27	209	2,056	233	61	25	75	0	0	3	0	159	0	28	0	0	4	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	7	8	4	61	865	58	11	5	26			2	1	73		3					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	8	5	3	16	94	12		3	4				5					1		
海部	津島	7	7	2	2	1				5	224	14		1	2				20		1					
尾張中部	師勝	4	4	1	1						60	1		1	2						3					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1			1	11	185	11	5	3	10				15		2					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	1	21	18	6	125	29	1	2	12			1	9		3					
	江南	6	6	1	2		1	3	1	12	162	11	1	1	5			2	20		4					
知多半島	半田	6	6	1	2	1		3	1	1	71	20	9	2	5				10							
	知多	7	7	2	2		6	14		92	142	9	4	2	9				19							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	1	4		14	105	27	12	1	7				10		1					
	衣浦東部	11	11	2	4	1	3	7	1	9	151	19	7	6	4				18		5					
	西尾	5	5	1	2	1	1			3	109	16	5		4				9		1					
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	6	14	1	12	207	31	4		4				14		7			1		
	加茂	3	3		1					1	62	3	4	3	2				3							
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		3	1	19	163	15	7		4									2		
	豊川	9	8	1	2	1	9	4		8	196	15	2		1				6		1					
東三河北部	新城	2	2			1													1							







愛知県感染症情報

2004年第1週～第53週(平成15年12月29日～平成17年1月2日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	617	38,118	3,016	9,732	47,670	11,859	2,531	2,852	6,440	149	136	7,191	61	10,629	29	1,582	16	24	305	0	0
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	500	29,852	2,333	6,639	33,666	9,581	2,077	2,221	5,104	134	70	5,551	58	8,395	20	1,247	16	24	303	0	0
名古屋市	70	70	11	14	1	117	8,266	683	3,093	14,004	2,278	454	631	1,336	15	66	1,640	3	2,234	9	335			2		
尾張東部 瀬戸	9	9	2	3	1	100	1,891	223	771	1,785	600	77	228	324	11	5	485	7	389	4	30			71		
海部 津島	7	7	2	2	1	1	2,037	107	214	3,246	598	41	77	182	6		198		640		84		6	55		
尾張中部 師勝	4	4	1	1			1,006	25	100	1,181	203	20	104	83		2	176		124		52					
尾張西部 一宮	16	12	3	4	1	13	2,137	245	554	3,435	732	359	105	491	4	2	312	3	777		57	1		1		
尾張北部 春日井	9	9	2	3	1	41	2,925	362	706	2,226	1,085	117	269	497	12	6	451	3	848		61	3	15	2		
	江南	6	6	1	2	60	1,152	102	736	2,842	775	64	114	414	6	3	357	2	546		69					
知多半島 半田	6	6	1	2	1	9	1,066	112	318	993	483	114	167	250	4	2	165	3	524	2	9			7		
	知多	7	7	2	2	45	1,772	320	620	2,336	717	143	246	388	1	1	306		830	3	16					
西三河南部 岡崎市	11	7	2	2	1	9	1,971	52	522	1,102	967	275	144	572	10	5	465	4	611	2	66					
	衣浦東部	11	11	2	4	1	28	3,226	166	537	2,072	827	295	188	476	7	4	435	7	1,121	1	105			18	
	西尾	5	5	1	2	1	11	867	33	225	1,374	380	136	124		1	203	7	478		51					
西三河北部 豊田市	8	8	2	3	1	124	3,025	146	395	3,711	805	164	171	369	65	38	530	10	883		506	2	1	69		
	加茂	3	3		1	2	414	39	91	710	152	53	66	70	1		66		86							
東三河南部 豊橋市	12	8	2	4	1	13	4,215	100	575	3,993	573	158	65	428	4		703	11	197	2	90	8		50		
	豊川	9	8	1	2	1	44	1,983	292	271	2,637	638	52	149	297	3	1	690	1	299	6	51	2	2	30	
東三河北部 新城	2	2			1		165	9	4	23	46	9	4	24			9		42							

愛知県感染症情報

2004年第1週～第53週(平成15年12月29日～平成17年1月2日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	500	29,852	2,333	6,639	33,666	9,581	2,077	2,221	5,104	134	70	5,551	58	8,395	20	1,247	16	24	303	0	0
～6ヶ月	185	281	9	22	389	258	28	8	408	37		41		3		15					
～12ヶ月	139	622	63	41	1,980	624	105	52	2,913	17	5	371	11	49		15					
0歳																	5	3	3		
1歳	101	2,111	335	196	4,814	1,785	449	116	1,638	6	10	1,517	16	405	2	62			28		
2歳	34	1,969	364	341	3,700	1,575	373	147	117	2	7	1,119	7	692		44	3		23		
3歳	24	2,142	432	713	3,556	1,818	335	238	14	5	2	1,016	2	1,274	1	54	1	1	36		
4歳	6	2,550	391	1,244	3,371	1,651	313	323	5	3	5	728	6	1,690	1	59		1	31		
5歳	7	1,762	298	1,256	2,751	916	214	422		3	1	378	3	1,607	1	58					
6歳	2	1,372	122	910	1,950	422	91	320	2	6	1	172	2	929		31					
7歳		1,140	98	598	1,451	192	67	203	2	1	3	91	2	530		19					
8歳	2	980	53	357	1,099	104	25	147	1	2		34	1	384		12					
9歳		1,078	49	248	940	55	19	100	1	1	1	29	1	259		6					
5歳～9歳																		3	82		
10歳～14歳		4,308	57	394	2,159	96	29	96	2	1	2	36	3	348		32		4	50		
15歳～19歳		1,959	4	49	712	14	2	3			2	4	2	36		21			4		
20歳～			58	270	4,794	71	27	46	1	50	31	15	2	189			7				
20歳～29歳		2,492													2	175		5	6		
30歳～39歳		2,449													5	299		5	16		
40歳～49歳		1,065													2	80			9		
50歳～59歳		640													3	105		1	5		
60歳～69歳		461													2	96			6		
70歳～															1	64					
70歳～79歳		279																	1		
80歳以上		192																1	3		